

研修参加報告書（2022 全国トップリーグ担当 T O 実技研修会 ）

研修会参加者	豊倉和樹 宮原美穂 田丸祥子 久松史椰
期 間	令和4年7月15日（金）、16日（土）
会 場	群馬県高崎市 高崎アリーナ（Wリーグ サマーキャンプ）

【事前研修】

令和4年7月6日（水）19:00~21:00 web形式（zoom）

- ・ T Oマニュアル（コミュニケーション）の確認
- ・ 評価表について

【実技研修】

- ・ 90分前に集合し、T OクルーでMTGや機材の確認をする。
 - ・ T Oクルーは前半組、後半組で入れ替わり、それぞれでIRからアドバイスをもらう。
 - ・ 違う県の方とクルーと組むことで、T Oマニュアルの徹底を図る。
- ※ F I B A T Oライセンス保有者は、2023WCの実技審査となる。

豊 倉

7月15日 山梨QB-滋賀銀行 担当：タイマー（後半） IR：和嶋氏

〈試合前のMTG〉

マニュアル・コミュニケーションの確認、後半担当なのでタイムアウトを注意する、リングヒットの有無、EOQ・EOGの確認

〈試合中〉

- ・ ショット成功後、毎回ベンチを見れていない→4Qに修正
 - ・ EOQ・EOGでゲームクロックがショットクロックと重なってしまい、ゲームクロックが残り24秒を切ったことをショットクロックに伝えられなかった。
- 状況によって『26, 25, 24・・・』と声をかけるとスムーズにできる（IRより）

〈試合後のMTG〉

- ・ 全体的には大きなトラブルなく、マニュアル通りクルーで連携して対応できていた。
- ・ 急な対応のとき、ゲームクロックはストップしているが、『ストップ』の声が出ていないときがあった。
- ・ L2Mは時間を止めることに全神経を注ぐ。（ベンチを見ることがあった。）

〈感想〉

県外の方と初めて組むクルーでのT Oで、普段できていることがスムーズにできない難しさを感じた。マニュアルの読み込みや事前のコミュニケーションの大切さを大事にしていきたい。オリンピックT O担当者と一緒に組んだが、問題なくT Oをすることができた。方向性として鹿児島での取り組みは間違っていないことが再確認できたので、質を向上させ、状況を共有し、県全体のレベルアップを図っていきたい。

田 丸

7月15日 新潟-山梨QB 担当：アシスタントスコアラー（前半） IR：八丁氏

- ・ すべての読み上げ、コールをされていて、スコアラーの邪魔になってしまっていた。
- ・ チームファウルを一つ多く表示されていて、少し時間が経っていたのに、勝手に戻ってしまった。時間が止まった時に審判にそれを伝え、戻すべきだった。
- ・ マニュアル通りのコールができていなくて、普段しないようなミスをしてしまった。

7月15日 東京羽田ーアイシン 担当：スコアラ－（後半） IR：遠藤氏

- ・ 前半のスコアラ－からの引き継ぎがうまくできていなくて、個人ファウルの数があるのか分からない事があった。
- ・ 同点になり、書く欄が変わるときに点数を A チーム、B チーム逆に書いてしまって途中合わなくなり、両チームを呼んで確認してもらった。そのときの A スコとの連携もできていなかった。
- ・ マニュアル通りのコールができていなくて、普段しないようなミスをしてしまった。

〈感想〉

- ・ やっていることは、確かに間違っていないが、いつものメンバーに慣れてしまっている部分があり、相方が変わると普段しないようなミスにつながり、コミュニケーションの大事さを知った。
- ・ コミュニケーションがマニュアル通りに出来ていないと痛感した。今必要な事を口にする、いらぬ情報は、口にしないことでミスをせず、正確に確認できると感じた。
- ・ マニュアルの読み込みと事前のミーティングをわかっているもしっかり行なう事が大事と感じた。

久松

7月15日 シャンソンー日立笠戸 担当：ショットクロック（後半） IR：土屋氏

- ・ リングに当たったか否かは映像で確認すれば大体答えがわかる。例えばミスリセットであったとしても決断と勇気を持った操作をしなければならない。
- ・ Referee のファウルコールの直後にショットクロックを非表示/14/継続ではなく、レポートが完了した後に操作をする。
- ・ 初めて使う機材は慣れるまで時間を要するので準備を入念に。

7月16日 日立笠戸ー三菱電機 担当：タイマー（後半） IR：和嶋氏

- ・ ゲームクロックの復唱をする際は再開のスローイン前 1 回のみ。マニュアル通りのオペレーションをしないと他の TO クルーのノイズになる。情報の取捨選択をしてコミュニケーションをとる。
- ・ SC5 秒以下のクロスコールをしてショットが成功した後に反対側のベンチを見れていなかった。
- ・ L2M の 10 秒前のカウントダウンは最も重要なのでショットクロックのカウントダウンより優先して行う。
- ・ EOG の各自でカウントダウンを宣告した後に 14 秒をコールした。相手クルーを惑わせるので宣言後はクロスコールを行わない。

〈感想〉

初めに、県外での研修会に参加させていただきありがとうございます。

JBA がマニュアルを作成されてから「相手クルーが全国の誰であっても同じオペレーションができなければならない」という狙いに自分自身のオペレーションでは届いていない事を強く実感させられる研修会でした。

会場独特の雰囲気や WC 派遣の選考会も兼ねておりいつもの心身状態では臨めない中ではありましたが、重大なトラブル等なく終わったことを担当クルーに感謝し、より一層マニュアルの熟知や今回の研修会で学んだことを県内の TLG 担当者に共有してより一層県内のレベルアップに努めてまいります。

宮原

7月15日 トヨタ紡織ー鶴屋百貨店 担当：スコアラー（前半）

- ・ ファウル記録に手間取ることで時間をロスしてフリースロー1投目に遅れる
 - レポート前にチーム、番号、ファウル数を確認
- ・ レポートに合わせてコールができていない
 - 再開方法までコール
- ・ ベンチの確認ができていない
 - ボールがライブになるまで

7月16日 日立ハイテクー滋賀銀行 担当：Aスコ（後半）

- ・ 視野の分担ができていない
 - Aスコはコート上から目を離さない
- ・ レポートの間違いへの対応が遅かった
 - レポート前にスコア系でのファウルの予測・共有ができていない
 - レポート後すぐに知らせられない
 - ゲームの中断につながる
- ・ アローの向きが変えられなかった
 - クルー内でジャンプボールシチュエーションの共有ができていない

〈感想〉

- ・ 初めてのメンバーで組んだことで、マニュアルを忠実に実践しなければならないと感じた
- ・ 分かっているだろうではなく、声に出して確認し合うことが大切
 - 確認することで間違いにも気づくことができる

【全体を通じて】

新型コロナウイルス感染拡大の影響で、3年ぶりの開催となった全国TO研修会に参加させていただきました。コロナ禍ということもあり、事前の準備やTOクルー間で十分なMTGができないなど、様々な制限がある中での研修でしたが、参加者それぞれが普段鹿児島で取り組んでいることを意識して臨むことができました。機材の確認や、MTGの内容など、普段鹿児島県が取り組んでいることは間違っていないということを改めて感じました。

TOマニュアルについては、県外の方とうまくコミュニケーションが取れない場面があり、そこからミスに繋がるケースがありました。改めてTOマニュアルの大事さを痛感しました。誰といつクルーを組んでもマニュアル通りにTO運営ができるように、県全体でTOマニュアルの徹底とTO技術のレベルアップを図っていきたいです。

また、トップリーグのTO運営や来年のかごしま国体に向けて、今回学んだことを生かしていきたいと思います。

